

【システム理工学部】

2026年度春学期履修登録スケジュールおよび各種申請手順・注意事項について

1 スケジュール

1.1 履修登録

項目	日時
履修登録申請期間	4月3日(金)～4月6日(月)
履修登録申請結果発表	4月13日(月)12時までに順次公開
履修登録確認期間	4月13日(月)12時～4月21日(火)23時59分
集中講義科目履修削除申請期間 ^{※1}	初回授業日の23時59分まで

※1 申請書提出で削除のみ可能

1.2 各種申請

項目	日時
・学外単位認定 ・「学外英語検定Ⅰ・Ⅱ」	3月31日(火)10時～4月3日(金)23時59分
他学部・自課程外履修	4月13日(月)12時～4月21日(火)23時59分
東京理工系大学 特別聴講生	未定 別途ScombZにて周知

2 履修登録における注意点

「履修登録確認期間」に行うことができる手続きは、以下 A)～C) の3点です。これ以外の手続きはできませんので、**春学期に履修を希望する全ての科目の履修登録を「履修登録申請期間」に行ってください。**

- A) 「履修登録申請期間」に申請して履修が許可された全ての科目の削除
- B) 専門科目の追加
- C) 必修科目およびクラス指定された科目の追加

※上記以外の手続きは一切行えませんのでご注意ください。

※履修登録に関する相談がある場合は「履修登録確認期間」中に大宮学事・学生課窓口まで申し出てください。

3 各種申請について

3.1 学外単位認定

3.1.1 申請方法:他大学等で単位を取得後、大宮学事・学生課に以下の書類をメール提出
(ogakusei@ow.shibaura-it.ac.jp)

- 学外単位認定申請書 (各種届出用紙 | 芝浦工業大学)
- 申請科目の成績証明書 (取得教育機関発行)
- シラバス

3.1.2 注意点:

- 可能単位数:最大60単位まで
- 他大学の履修科目が本学の開講期間と重なる場合、履修単位上限に含まれるため、申請前に履修指導学年担当の許可を得ること

3.2 「学外英語検定」の単位認定

3.2.1 申請方法:大宮学事・学生課に以下の書類をメール提出 (ogakusei@ow.shibaura-it.ac.jp)

- 学外英語検定認定申請書 (各種届出用紙 | 芝浦工業大学)
- 各種英語検定試験の証明書類

3.2.2 注意点:

- 具体的な手続きについては「学外英語検定認定申請書」下部の【申請の注意事項】を参照のこと
- 面接試験の受験後、成績が決定（成績通知書で確認可能）

3.3 他学部・自課程外履修

3.3.1 前提：原則として自課程・コースの授業を優先して履修してください。（別紙参照）【後日掲載予定】

自学部・自課程に同様の科目がある場合は、基本的には他学部・自課程外履修は認めない。

3.3.2 申請方法：授業担当教員および履修指導学年担当の許可を得たのち、大宮学事・学生課に申請してください。

3.3.3 注意点:

- 修得可能単位数：最大30単位まで
- 履修可否はSITRUSで確認
- 開講学部・課程・コースの学生が優先されるため受入が許可されない場合がある
- 申請した科目の削除はできない
- 申請が認められた科目は履修制限単位数に含まれる

3.4 東京理工系大学 特別聴講生

3.4.1 制度概要:

他大学（東京電機大学、東京都市大学、工学院大学）の授業を「特別聴講生」として受講可能

3.4.2 費用：聴講料、入学検定料、入学金は免除

※実験・実習等の実費は自己負担

3.4.3 申請方法:

- 豊洲学生課から案内を確認（ScombZのお知らせを参照）
- 大宮学事・学生課が履修申請を代行し、審査結果を別途通知

3.4.4 注意点:

- 申請には在籍課程の承認が必要
- 単位認定には、受講終了後に「学外単位認定」の手続きが必要（最大60単位に含まれる）
- 卒業要件算入の可否は在籍課程で決定される

2026年3月 大宮学事・学生課

■履修すべき科目の順番

ご自身の学習到達度を顧みながら分野横断型授業を取り入れる。優先順位は以下①～⑥の順番通り。優先順位を飛び越える場合は、履修指導学年担当に相談すること。

内容	指導・手続き	卒業要件	モジュール	備考
①モジュール完成	(1)専門基礎モジュール（必修）から完成させる。 (2)4つの主専攻モジュールを完成させる。 (3)5つ目は、主専攻or副専攻モジュールから選択する。	各課程で決められた、必修モジュール、選択必修モジュールを優先して完成させる。	複数のモジュールに該当する科目の場合は、モジュールの完成には重複してカウントされるが、総合研究以外の専門科目の修得単位数には重複してカウントされない。	課程のディプロマ・ポリシー（DP）内
②自コース内の副専攻モジュール…全課程		副専攻モジュール1つ（12単位）を完成した上でも、更に副専攻モジュールにある科目は卒業要件に算入される。（60単位の充当）	1モジュール完成が卒業要件に入る。	課程のディプロマ・ポリシー（DP）内
③自課程内の分野横断…複数コースのある情報課程、建築・環境課程、生命科学課程が対象		自課程内他コースの主専攻モジュールにある科目も、卒業要件の専門科目として算入される。（60単位の充当）	モジュール一覧に記載されていないため、モジュール完成にはカウントされない。	課程のディプロマ・ポリシー（DP）内
④他課程の分野横断…その他の専門性が高い科目 *自課程外履修	・自課程に同様の科目がある場合は、基本的には自課程外履修は認めない。 ・他課程で開講される、自コースの副専攻モジュールにない科目を履修したい場合は、履修指導を受けた上（履修指導学年担当・授業科目担当教員に許可を得る）で、学事・学生課に申請をする必要がある。	・自コースの副専攻モジュールにない科目は、自課程のディプロマ・ポリシー（DP）を満たすと個別判断されるものは卒業要件に含める。 ・自課程のディプロマ・ポリシー（DP）を満たさないものは卒業要件に含めない。（自由科目）	モジュール一覧に記載されていないため、モジュール完成にはカウントされない。	
⑤他学部の分野横断…他学部履修	・自学部と同様の科目がある場合は、基本的には他学部履修は認めない。 ・他学部の科目を履修したい場合は、履修指導を受けた上（履修指導学年担当・授業科目担当教員に許可を得る）で、学事・学生課に申請をする必要がある。	・課程のディプロマ・ポリシー（DP）を満たすと個別判断されるものは卒業要件に含める。 ・課程のディプロマ・ポリシー（DP）を満たさないものは卒業要件に含めない。（自由科目）	モジュール一覧に記載されていないため、モジュール完成にはカウントされない。	
⑥学外単位認定		以下の学外単位認定の項目を参照ください。		

※「②自コース内の副専攻モジュール」の科目修得に関する補記

(1)5つ目のモジュールを主専攻で完成した場合でも、卒業要件を満たすため副専攻モジュールから単位を修得しても良い。（卒業に必要な124単位や専門科目60単位を満たすため）

(2)副専攻モジュールの科目を13単位以上取った場合、1モジュール分（12単位）より上回るが、その単位は専門科目の卒業要件60単位以上に入る。

同様に1～11単位のみ副専攻モジュールの科目を修得した場合も卒業要件に入る。

■学外単位認定

内容	手続き	卒業要件	モジュール	備考
国内大学等の単位…入学前取得（先取り授業を含む）、在学中取得（4理工、放送大学など）を想定（再入学、転部も含む）	(1)学内科目に読み替えて認定 (2)他大学科目名のママ認定	・課程のディプロマ・ポリシー（DP）を満たすと個別判断されるものは卒業要件に含める。 ・課程のディプロマ・ポリシー（DP）を満たさないものは卒業要件に含めない。（自由科目）	■専門科目の場合 (1)の場合、自動的に該当モジュールに算入。 (2)の場合、どのモジュールに組み込めるかは都度審議。いずれのモジュールにも算入されない場合もある。 ■基礎教養科目、学際科目の場合 留学モジュール含めいずれのモジュールにも算入されない。	
海外大学単位…国際プログラム生などを想定	(1)学内科目に読み替えて認定 (2)海外大学科目名のママ認定 ※原則は(2)海外大学科目名のママ認定	・課程のディプロマ・ポリシー（DP）を満たすと個別判断されるものは卒業要件に含める。 ・課程のディプロマ・ポリシー（DP）を満たさないものは卒業要件に含めない。（自由科目）	■専門科目の場合 (1)の場合、自動的に該当モジュールに算入+留学モジュールに算入（英語開講科目として、単位認定用に科目コードを作成する）。 (2)の場合、どのモジュールに組み込めるかは都度審議。ただし、留学モジュールには算入させる。 ■基礎教養科目、学際科目の場合 留学モジュール含めいずれのモジュールにも算入されない。	
マレーシア編入	原則(1)学内科目に読み替え認定 一部(2)海外大学科目名のママ認定	・課程のディプロマ・ポリシー（DP）を満たすと個別判断されるものは卒業要件に含める。 ・課程のディプロマ・ポリシー（DP）を満たさないものは卒業要件に含めない。（自由科目）	■専門科目の場合 (1)の場合、自動的に該当モジュールのみに算入。 (2)の場合、どのモジュールに組み込めるかは都度審議。いずれのモジュールにも算入されない場合もある。 ■基礎教養科目、学際科目の場合 いずれのモジュールにも算入されない。	*マレーシア編入の学生は、一般プログラム生とする（国際プログラム生にはなれない）。 *留学モジュールを完成した場合にも、卒業要件におけるモジュール数には含めない。

■その他

(1)主専攻（Major）とは

所属する学部・課程・コースのDP（ディプロマ・ポリシー、学位授与の方針）が掲げる専門能力を確実に身につけるための学修のことです。

所属する課程・コースのCP（カリキュラム・ポリシー）に示された分野に関係する科目群を学ぶことで「課程・コースの学位にふさわしい専門性」を修めます。

(2)副専攻（Minor）とは

「主専攻」以外の分野を、一定の体系に従って計画的に学ぶ制度（課程制）によって得られる分野横断型学修のことです。

「主専攻」とは異なる視点、あるいは複合的な課題を解決するための幅広い知識（多様性）を修得する学修です。

例えば「建築学（主）」×「データサイエンス（副）」や、「機械工学（主）」×「医工学（副）」のように、ある社会課題を解決できる個性的な問題解決力を身につけます。

(3)2026年度生向け科目（課程制）のうち、2025年度以前生向け科目（学科制）と**合併していない**科目は、2025年度以前生は履修できない。（合併している科目のみ履修できる）